

グローバルリーダー育成 陵水表彰学生

海外インターンシップ体験記



陵水会では、母校のグローバル人材の育成を支援・強化するため、「グローバルリーダー育成」陵水奨学金制度に加え、平成31年度から「グローバルリーダー育成」陵水会表彰制度をスタートさせました。その概要は、海外活動（インターンシップやボランティア活動）に参加し、経済学部規程に定める「自主企画海外体験・研修」の研修Bまたは研修Cの履修認定を受けた学生のうち、優秀な成果を収めたと認められる学生に対し、表彰状および褒賞金を授与するものです。厳選な審査の結果、今年度の受賞者には次の方々を選出されました。

陵水会理事長賞（最優秀）：梶本紗貴さん
陵水会賞：竹岸理沙さん、小森茉耶さん

陵水会理事長賞：三津間楓さん、河合将利さん
経済学部長特別賞：瀧野将矢さん

今回は、陵水会理事長賞（最優秀）及び陵水会理事長賞を受賞された3名の海外インターンシップ体験記を掲載させていただきます。



最終日に60分のビジネスプレゼンテーションを終え卒業



現地の村でのボランティア活動時の写真



韓国人観光客向けの店舗から大口契約を獲得

フィリピンでの語学留学

「世界で活躍する人間になりたい！」。世界中で活躍されているゼミの先輩方の話を聞いているうちに、自分もこのような想いを抱くようになりました。そこで、語学力と実践的な問題解決力を鍛えるという目標を設定し、1年間の海外武者修行計画を立てました。そして、留学後すぐに実践的なトレーニングに取り組みめるように、留学前の1年間、独学で英語の勉強に取り組みました。留学では、初めの4か月間をフィリピンの語学学校で過ごしました。朝から晩までスピーキングやプレゼンテーション、グループディスカッションなどの実践的な英語学習に取り組みました。部屋は3人部屋を選択し、他国の友人との共同生活をしました。また、休日は地元のボランティア活動に参加し、ストリートチルドレン



陵水海外体験記

経済学部四回生 梶本 紗貴

門前払いから始まったベトナムインターンシップ

フィリピンで語学力を鍛えたのち、英語を使って海外営業に挑戦すると決めていました。そこで、途上国の中でも経済成長が著しく、今後日本との関係もますます重要となるベトナムで6か月間インターンシップに挑戦しました。ベトナムでの生活はハプニングだらけでした。道路を埋め尽くす程のバイクが原因で交通事故が毎日起きていました。また、急な停電も珍しくなく、一度停電するとすべての経済活動が停止するような状況でした。そんな環境下での私の主な仕事内容は、日本人向け観光雑誌に掲載する広告枠を、現地の商店に飛び込み営業で購入契約してもらおうというものでした。早く多く契約を勝ち取りたいと思っていた私は、灼熱の太陽が照り付ける中、毎日10〜15店舗に飛び込み営業を行って

が住んでいる街に出かけました。「ボランティアの人が来るから働く必要がない」、2人のストリートチルドレンの子を持つ父親が放った一言は今でも忘れられません。

ました。しかし、契約は全く取れませんでした。それどころか、話を聞いてもくれず門前払いされることや、罵倒されることが度々ありました。話を聞いてくれない、既に他の大手広告代理店と契約している店舗が多かったこともあり、断られてばかりいました。

そこで、広告会社と未契約だと予想されるローカル店に着目しました。そして、自らがローカル店に経営のアドバイスをを行うことで、観光客に人気の店舗に変貌させるコンサル営業を独自に考案しました。商売が成功すれば、宣伝広告の需要も生み出し、契約数の増加に繋がると考えました。とくに、観光客に人気のスバに業種を絞りました。過去に営業に行った日本人に人気の店舗と同様に、日本人観光客向けのメニューの作成や、送迎サービスの導入を提案し、店舗をプロデュースして課題を解決するという自分なりのアプローチを確立しました。

その結果、最後の1か月で次々に契約を獲得することが出来、インターン生の中でダントツの「100万円の売り上げを達成」しました。また、トータルで800店もの店舗に営業をかけた結果、文化や言葉を超えた社交性と実践的な問題解決力を身に付けることが出来ました。